



志木二小だより

令和3年度 8・9月号

志木市立志木第二小学校

志木市館1丁目2番1号

TEL 472-0540

<http://www.shiki2syo.ed.jp/> 志木二小 検索

学校教育目標 **進んで学ぶ子 心の豊かな子 体をきたえる子**

児童数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	たんぽぽ	8/30現在
	92	85	76	97	70	77	15	512

がまんの9月 ~辛苦に耐えて得た経験こそ、大きな自信になる~

校長 松本 秀之

夏休みもあっという間に終わり、子供たちは、少したくましくなった顔つきとたくさんやり遂げた宿題や課題とともに、元気に登校してきました。さて、いよいよ2学期がスタートしました。子供たちにとっては、夏休み中の生活リズムから学校生活のリズムに慣れるのに少し時間がかかるかもしれませんが、早く慣れるようにしてほしいものです。

この2学期は1年間の中で一番長い学期で、授業日数は81日です。感染症拡大防止対策を強化したスタートとなりましたが、子供たちの「がんばる姿」をたくさん見られると期待しています。子供たち一人一人が目標を立て、あきらめずに達成できるように、そして困難な状況下でもそれを乗り越えることが一人一人の大きな自信にも繋がると信じ、教職員一丸となり指導してまいります。保護者、地域の皆様には、引き続きチーム志木二小として、2学期も変わらぬ御支援・御協力をお願い申し上げます。

さて、私が担任だったころ、学級全員で気持ちを一つにさせたい時にしていた話を紹介します。

昔あるところに、ある王国がありました。ブドウの産地として有名な国で、特産物のワインで豊かな生活ができる国でした。

ある日、王室の使いの者が国民を集め、次のように述べました。

「今年の王様の誕生日は、国民みんなの気持ちが一つになっているところを見せよう。そこで、1家庭グラス1杯のワインを集めて、みんなで祝杯をあげよう。」

国民は皆、「それはいい考えだ。」と賛同しました。使いの者は「では、明日、王室の者が一軒ずつ訪問するので、ワインを用意しておくように。」と言いました。

家に帰ったある男が妻にそのことを話したところ、「あんた、ワインがもったいないじゃないか。こうして水で薄めりゃ、分かりゃあしないよ。」と、にやにやして言いました。

次の日、使いの者がやって来ると、国民は皆、グラス1杯のワインを、馬車にひかれた大きな樽に注ぎました。お城に戻り、いっぱいになった大きな樽を見た使いの者は、「これで王様は、きっとお喜びになられる。誕生日が待ち遠しいぞ。」と思いました。

いよいよ、王様の誕生日の日が来ました。国民は大きな樽から、1杯ずつワインをいただきました。「さあ、みんなで乾杯だ！」笑顔の王様を国民みんなで囲み、使いの者が声高らかに叫びました。「かんぱーい！」「かんぱーい！」ゴクッ、ゴクッ、ゴクッ。

国民は次々に「うへ〜。不味い。なんだこのワインは。まるで水ではないか。」と怒り、広場から立ち去ってしまいました。実は、ワインを薄めたのはあの男の家だけではなかったのです。誰もいなくなった広場には、王様と使いの者の悲しそうな2つの影が長く伸びていました。

・学校の中にウィルスを持ち込まない (一人一人の意識が大切)

「少しぐらい」「我が家くらい」という気持ちをグツとこらえることで、自分自身が感染源になる可能性が減らせるはずです。

・今や誰でも感染する状況である (周囲の理解が大切)

「ばれる」と怖いから誤魔化す。そんな気持ちの方が一人でもいたら、とても悲しくなります。コロナ偏見・コロナいじめは、絶対に「しない・させない・許さない」です。